

2014年度 日経就職ナビ 学生モニター調査結果 (2013年4月発行)

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

4月1日現在の就職活動状況

2014年度
Vol. 5

新年度に入り、2014年度就職戦線は採用選考のハイシーズンを迎えた。4月1日現在の就活モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、前年同期に比べ内定率の上昇が確認された。

1. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は19.6%。前年同期(15.0%)より4.6ポイント上昇
- 就職活動終了者は全体の4.5%。

2. 内定を得た業界

- 文系は「建設・住宅・不動産」「情報処理・ソフトウェア」「銀行」などが上位に
- 理系は「情報処理・ソフトウェア」に内定が集中

3. 4月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- 全体的な活動量は対前年微増の水準

4. OB・OG訪問の状況

- OB・OG訪問経験者は34.5%で2年連続減少。「適当なOB・OGがない」「手間がかかる」

5. 理系学生の会社施設見学への参加状況

- 工場見学参加者38.7%、研究所見学29.8%。参加者の9割超が「有意義」と回答

6. 志望業界の推移

- 文系1位「銀行」、理系1位「電子・電機」。11月調査時より分散化し視野広がる

7. ここまでの就職活動で後悔していること

- 「自己分析」52.0%、「業界研究・企業研究」50.3%の順。全体的に前年より数値下がる

8. 就職活動の難易度

- 「厳しい」66.7%、「やさしい」9.3%。先月調査より「とても厳しい」の割合が増加

9. 就職活動を厳しい／やさしいと感じる理由

- 厳しい理由「選考が進まない」81.4%、やさしい理由「選考がスムーズ」84.1%

《参考データ》 大学地域別集計(抜粋)

《調査概要》

調査対象 : 2014年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答数 : 1,288人(文系男子436人、文系女子351人、理系男子351人、理系女子150人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2013年4月1日~8日
サンプリング : 日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 4月1日現在の内定状況

4月1日現在のモニターの内定率は19.6%。前年同期より4.6ポイント高く、リーマン・ショック後の就職戦線(2010年卒者以降)で、4月の内定率としては最も高い数字を示した。一人あたりの内定社数は平均で1.5社と、前年(1.3社)より重複内定も増えている。

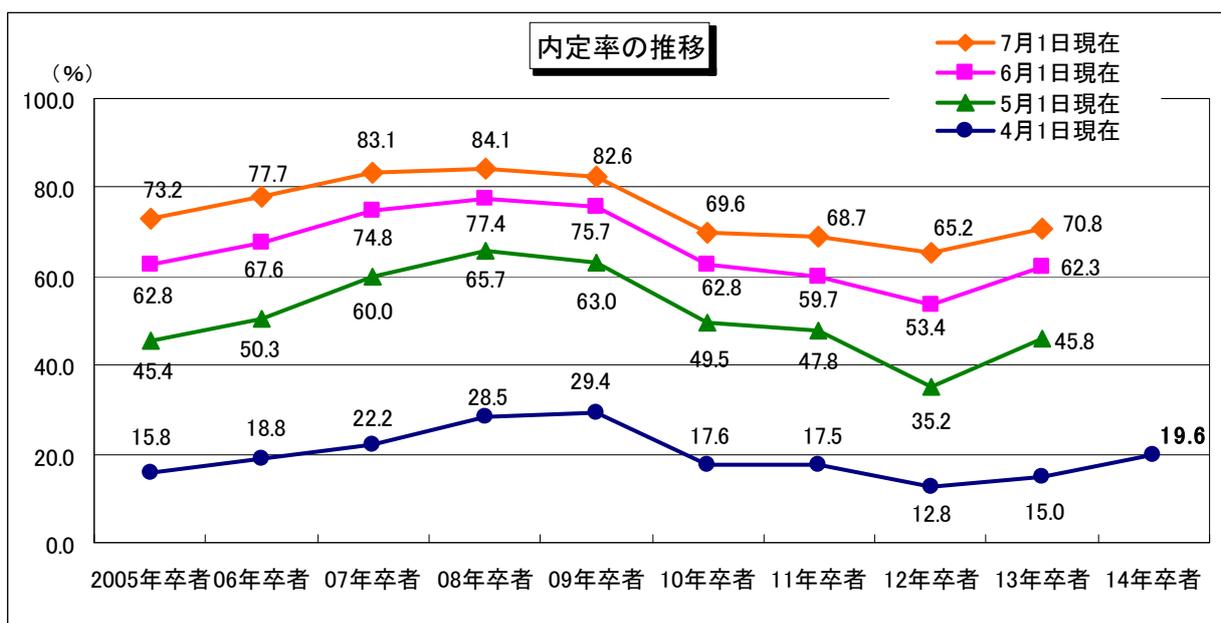
政権交代後の株高と円安進行で、輸出業を中心に企業業績に対する見通しは好転。景気回復への期待もあって企業の新卒採用意欲は高まりを見せている。3月に発表された日本経済新聞社の新卒採用計画調査でも、43業種中32業種で今春実績よりも大卒採用を増やすとしていた。

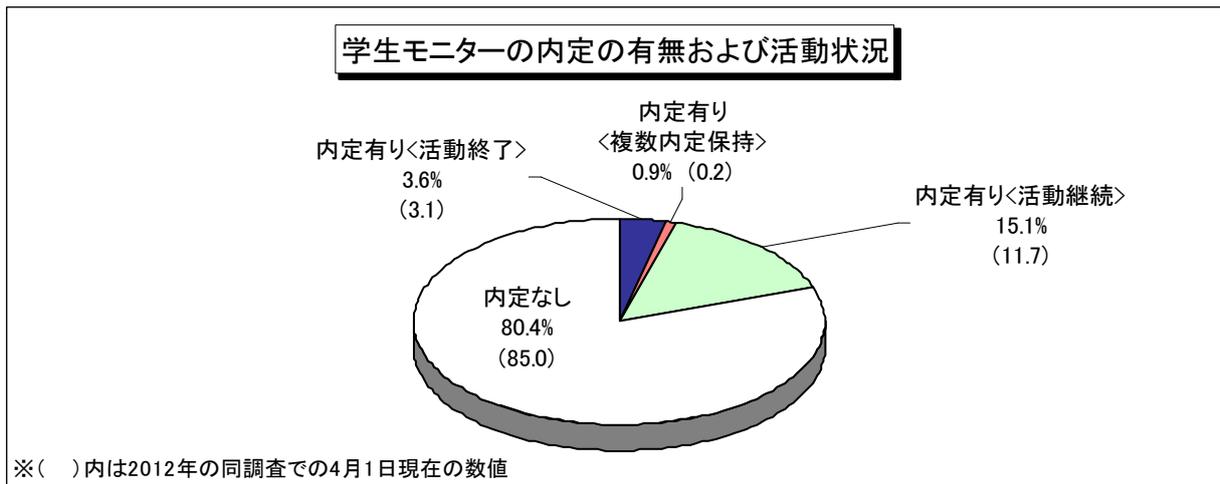
前年同期調査では、内定取得学生のうち就職先を決定し活動を終了させたのは20.8%だったが、今年は18.6%とやや減少し、活動継続者が増えている。モニター全体を分母とした場合の終了者は4.5%。大手有力企業の多くは4月中旬~下旬が内定出しのピークであり、5月1日現在の内定状況に注目したい。

4月1日現在の内定の状況 *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定有り		19.6 (15.0)	19.3 (18.8)	16.5 (14.5)	21.4 (11.8)	24.0 (13.1)
内定なし		80.4 (85.0)	80.7 (81.2)	83.5 (85.5)	78.6 (88.2)	76.0 (86.9)
内定社数 (平均/社)		1.5 (1.3)	1.8 (1.5)	1.4 (1.1)	1.4 (1.4)	1.4 (1.2)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	18.6 (20.8)	15.5 (21.5)	10.3 (21.7)	26.7 (14.6)	22.2 (29.4)
	終了したが複数内定保持	4.7 (1.6)	7.1 (1.3)	6.9 (0.0)	2.7 (4.9)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で活動を中止	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	76.7 (77.6)	77.4 (77.2)	82.8 (78.3)	70.7 (80.5)	77.8 (70.6)

※()内は2012年の同調査での4月1日現在の数値





2. 内定を得た業界

4月1日現在で内定を得ている人に、内定企業の属する業界を聞き、上位業界を表にまとめた(全40業界。複数回答あり)。まだサンプル数が少ないため参考値として見る必要があるが、どんな業界が早く動いたかを知る目安にはなるだろう。

まず文系は、前年調査で1位だった「銀行」が3位になり、「建設・住宅・不動産」が1位となった。住宅・不動産販売業界は裾野が広く、倫理憲章にとらわれずに採用活動を進める企業が多いため、早期の内定が集中したのだと見られる。2位は前年同様「情報処理・ソフトウェア」だが、やはり業界全体での採用規模が大きく、早期に選考を行う企業も多いため、毎年早い時期から多くの内定が出ている。

「建設・住宅・不動産」は理系でも2位と上位に来ているが、「情報処理・ソフトウェア」が38.7%と圧倒的に内定が集中しているのが特徴的だ。この2業界が率先して早期に内定を出した様子が表れている。

内定を得た業界(文系)

2014年卒者		2013年卒者		2012年卒者	
1	建設・住宅・不動産 18.3	1	銀行 16.0	1	情報・インターネットサービス 14.9
2	情報処理・ソフトウェア 15.5	2	情報処理・ソフトウェア 11.2	2	情報処理・ソフトウェア 13.8
3	銀行 13.4	3	その他サービス 10.4	3	教育 12.8
4	教育 11.3	4	スーパー・コンビニエンス 9.6	4	銀行 10.6
5	情報・インターネットサービス 10.6	5	情報・インターネットサービス 8.8	5	建設・住宅・不動産 7.4
	スーパー・コンビニエンス 10.6				調査・コンサルタント 7.4

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

内定を得た業界(理系)

2014年卒者		2013年卒者		2012年卒者	
1	情報処理・ソフトウェア 38.7	1	情報・インターネットサービス 25.9	1	情報・インターネットサービス 20.0
2	建設・住宅・不動産 10.8	1	建設・住宅・不動産 25.9	2	情報処理・ソフトウェア 18.0
3	機械・プラントエンジニアリング 9.9	3	情報処理・ソフトウェア 24.1	2	建設・住宅・不動産 18.0
4	情報・インターネットサービス 9.0	4	医薬品・医療関連・化粧品 12.1	4	水産・食品 14.0
5	人材紹介・人材派遣 7.2	5	人材紹介・人材派遣 6.9	5	調査・コンサルタント 12.0

3. 4月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

4月1日現在の活動量をまとめた。エントリーシート提出社数は平均18.6社。先月調査の12.3社からは6.3社増え、前年同期(17.8社)を僅かながら上回った。企業単独セミナーへの参加社数は21.9社で、前年同期(21.1社)とほぼ同数。選考試験の受験社数は、すべての形式で前年の社数をやや上回ったものの、やはり微増にとどまっている。

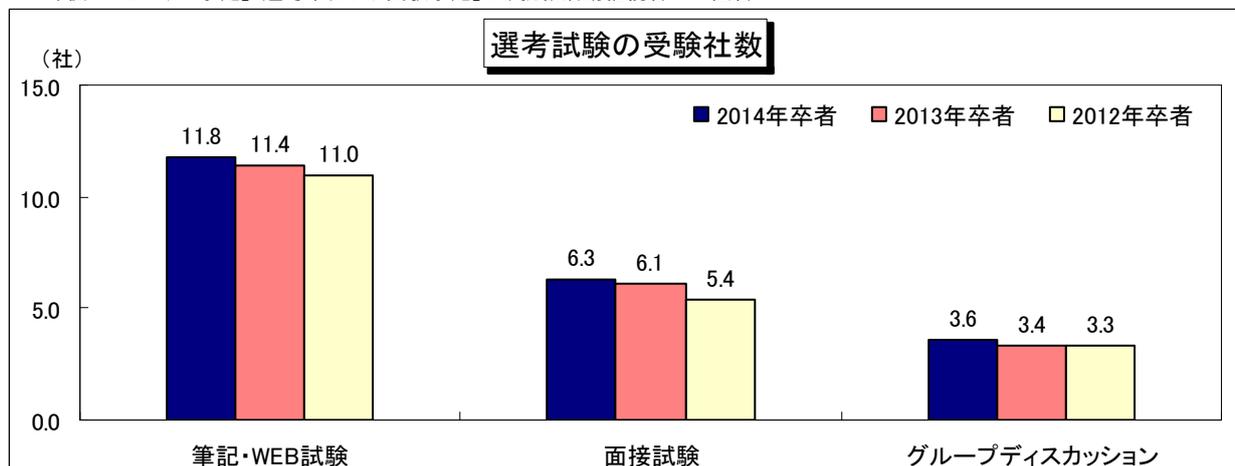
今年の学生のセミナー参加や選考試験受験といった活動量は、常に前年同期を上回る水準で推移し、早期から活発に行動している様子が見えが、この4月調査でほぼ前年と同水準になった。12月からの4カ月間という限られた期間で行動できる限界に近い数字なのだろう。

ただ、一人あたりのエントリー社数は平均で81.3社と、先月調査(74.2社)からの1カ月間で7.1社増えている。エントリーのペースは失速しておらず、今後のエントリー予定社数も、3月調査では9.5社だったのが、4月は12.0社へと増えている。内定率が上がっているにもかかわらず、新規エントリーの意欲は高い。これはエントリーシートなどの事前選考の結果が甘んじられなかった学生が早々に志望の幅を広げ、新規企業へのアプローチを強化しようとしているのだと推測できる。実際、モニター調査ではないが、日経就職ナビ経由のエントリー状況を見ると、全エントリー数における従業員300人未満の中小企業の占める割合が3月は32.7%で、12月(10.9%)の3倍に増えていた。

4月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年3月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	81.3	74.2	76.7	87.1	97.5	60.9	73.8
今後のエントリー予定 (社)	12.0	9.5	14.1	12.7	13.0	10.2	10.3
セミナー・説明会参加 (社)	49.3	45.4	49.0	53.5	55.6	41.5	40.7
企業単独開催のもの (社)	21.9	18.1	21.1	25.8	24.6	16.6	16.5
合同開催のもの (社)	15.4	15.2	16.1	15.7	17.5	13.4	13.7
学内開催のもの (社)	12.1	12.0	11.8	11.9	13.5	11.5	10.5
オンラインセミナー視聴 (社)	6.6	6.0	-	7.4	7.0	5.6	5.6
ライブ中継 (社)	3.4	3.2	-	3.6	3.8	2.9	2.8
オンデマンド(録画) (社)	3.2	2.8	-	3.8	3.2	2.6	2.8
エントリーシート提出 (社)	18.6	12.3	17.8	20.5	19.7	14.9	19.1
選考中および受験予定 (社)	8.4	-	8.6	9.3	9.9	6.3	6.7

*「今後のエントリー予定」「選考中および受験予定」は、就職活動継続者のみ回答

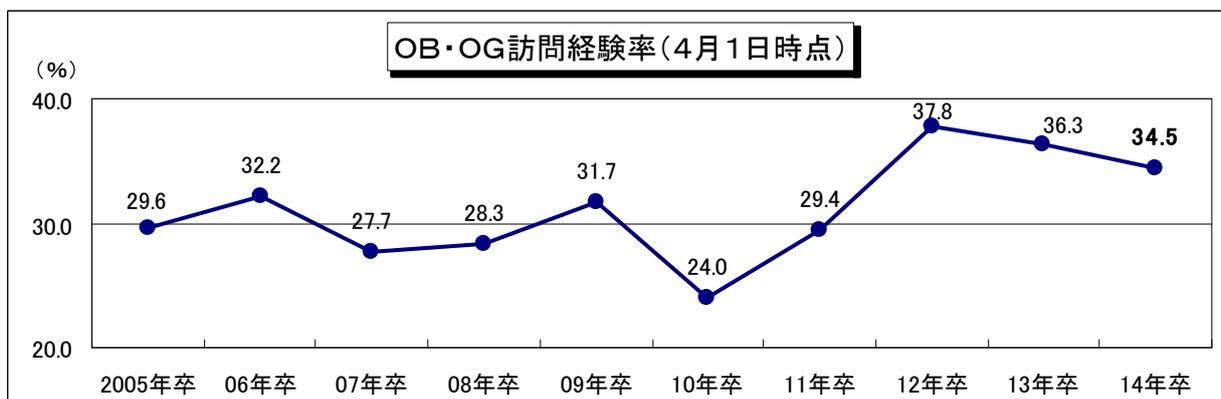


4. OB・OG訪問の状況

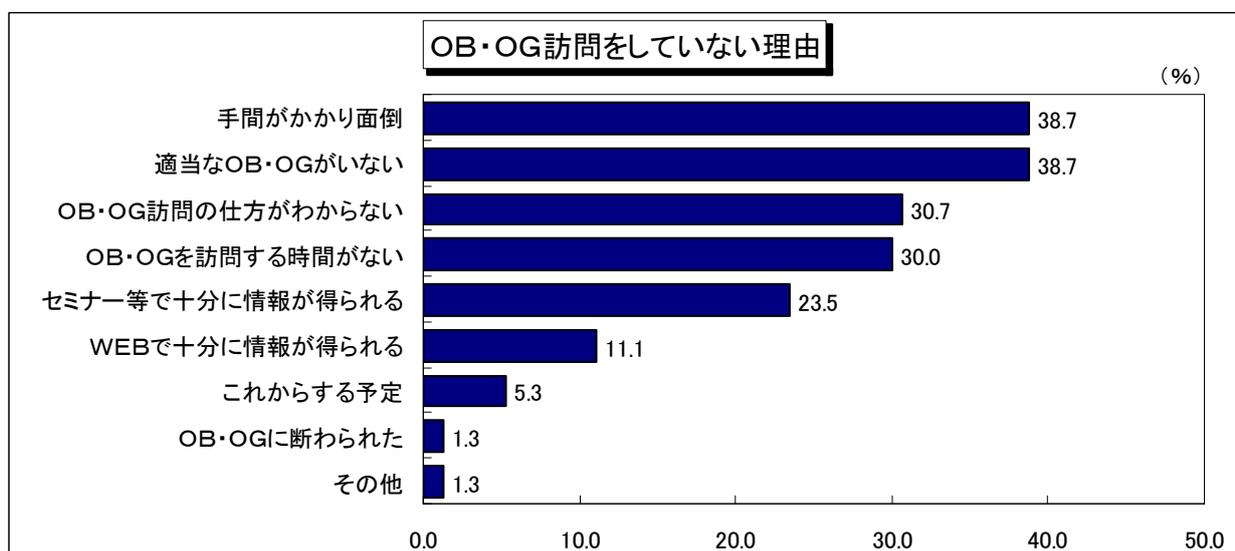
現時点で就職活動の一環として自主的にOB・OG訪問をした人は34.5%。OB・OG訪問をする学生は数年前まで3割前後で推移してきたが、一昨年の調査（2012年卒者）では、東日本大震災後の選考試験延期で生じた時間をOB・OG訪問に充てた学生が出るなどし、一気に経験率が上がっていた。しかし、2013年卒者（前年調査）では再び減少に転じ、今期も引き続きOB・OG訪問をする学生は減少傾向にある。

OB・OG訪問未経験者に訪問していない理由を聞いたところ、「適当なOB・OGがない」と「手間がかかり面倒」がともに38.7%で最多だった。大学の卒業生名簿の閲覧制限などから、訪問したくても適当なOB・OGが見つからないといった学生は案外多い。そうした学生のために、企業側がOB・OG懇談会や社員質問会などを開催する例もあるが、「セミナー等で十分に情報が得られる」と回答した学生は23.5%と4人に1人の割合だった。

実際に企業で働く社員との交流が就職活動や企業選びに有益であることは間違いなく、より多くの学生が気兼ねなくOB・OGに話を聞けるような仕組みが、企業や大学に求められている。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
2014年卒者	4.5	5.7	3.4	3.9	3.4
2013年卒者	4.0	4.8	3.8	3.1	2.8
2012年卒者	4.4	4.9	4.7	3.4	3.6



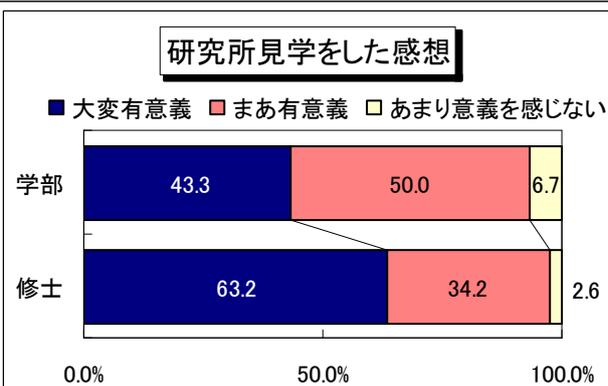
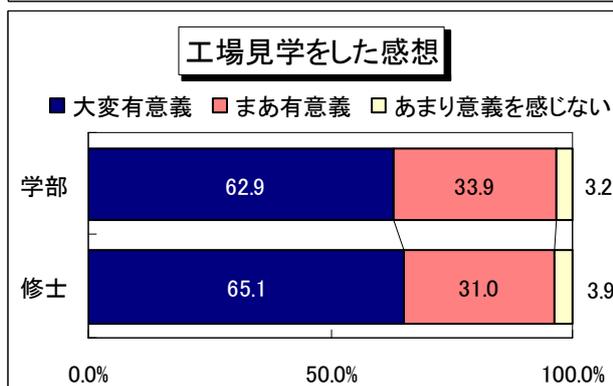
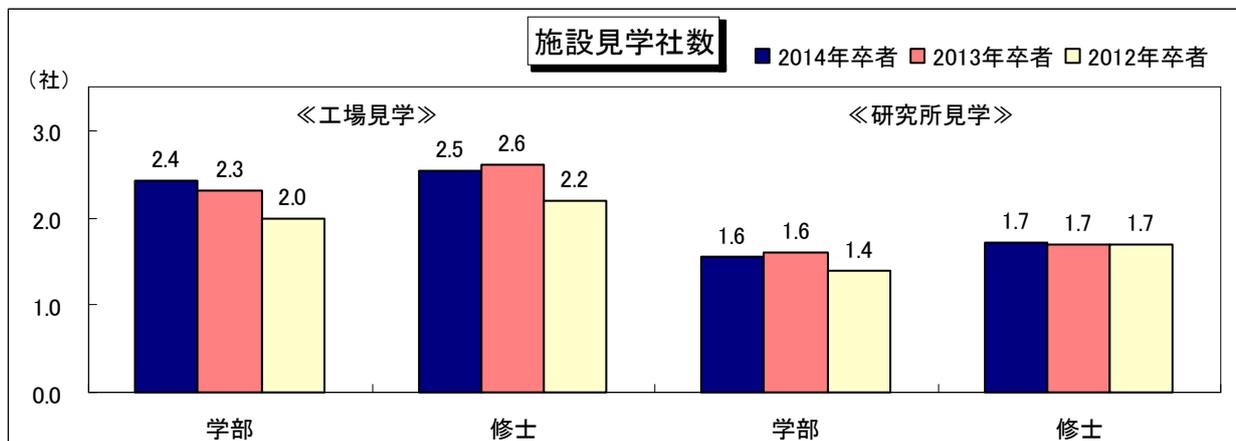
5. 理系学生の会社施設見学への参加状況

理系学生を対象に、「工場見学」「研究所見学」の参加状況を聞いた。工場見学に参加した学生は38.7%で、前年同期（38.6%）と同水準。学部生より修士学生のほうが参加割合が高く、約2倍の差がある。参加した学生の平均社数は、学部生2.4社、修士生2.5社と差はない。一方「研究所見学」は、主に研究職志望者が対象となるため、学部生の参加率は12.5%と極端に低く、修士生46.1%と大きく差が開いている。参加学生の平均社数は、学部生1.6社、修士生1.7社。

施設見学参加者に感想を求めたところ、工場見学・研究所見学ともに9割以上が「有意義」と回答した。とりわけ工場見学については、学部生・修士生ともに6割強が「大変有意義」としており、企業にとって学生のモチベーション（志望度）を上げる策としての効果の高さがうかがえる。

理系の施設見学の状況

	全体	(前年全体)	学部	修士
工場見学に参加した	38.7	38.6	25.8	50.8
研究所見学に参加した	29.8	23.0	12.5	46.1



■施設見学をした感想

- 工場見学、研究所見学ともに参加したが、同じ企業でも研究所と工場の考え方が異なることを身を持って知ることができたので、志望先決定に大変有意義であった。 <理系男子>
- 実際の現場を見ることでモチベーションが上がった。 <理系男子>
- 工場を見ることでその会社がどれだけ生産に力を入れているかがわかる。 <理系女子>
- プログラムによって有意義かどうかの差がかなり出た。工場見学させてくれた1社は社会科見学と同様の対応に留まり、専門知識がある人間には不満が残る内容だった。研究所見学はそれぞれの会社ごとにカラーの違いがわかりおもしろかった。 <理系男子>

6. 志望業界の推移

4月時点の志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、今年度最初の11月下旬調査と比較した。全体的に数字がなだらかになり分散化したが、一人あたり選んだ業界数は平均3.7業界(11月)から3.4業界(4月)とあまり変わらず、依然として3業界以上を志望している。

文系は、1位・2位の順位は変わっていないが、「銀行」は38.9%から36.5%へと2.4ポイントほど下がり、「商社(総合)」は25.5%から18.5%へと7ポイント下がっている。人気の割に採用数が少ない「マスコミ」は3位から5位へ、「水産・食品」は4位から10位へと順位を下げたが、ともに7ポイント以上減っている。逆に数字が上がったのは「保険」や「信用金庫・信用組合」といった金融業界で、セミナーを多数開催し積極的に情報提供をするなど、学生との接触が多いことが人気上昇の一因と考えられる。また「官公庁・団体」もポイントが増えており、金融人気とあわせて考えると、就職活動中に安定志向を強める学生の増加がうかがえる。

理系は、専攻との結びつきが文系よりも強いいため、就職活動中に大きな変更はしにくいだが、11月に14.6%で10位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が、21.8%(2位)へと大幅に伸びているのが目立つ。「情報処理」は、3ページで確認したように、早期に選考を進め多くの内定者を出している。そのあたりも志望順位の上昇と関係あるだろう。

志望業界の推移 (文系)

11月下旬調査		%	4月調査		%
1位	銀行	38.9	1位	銀行	36.5
2位	商社(総合)	25.5	2位	商社(総合)	18.5
3位	マスコミ	24.6	3位	運輸・倉庫	18.0
4位	水産・食品	20.7	4位	商社(専門)	17.1
5位	ホテル・旅行	17.7	5位	マスコミ	16.8
6位	運輸・倉庫	17.2	6位	保険	15.5
7位	商社(専門)	16.2	7位	建設・住宅・不動産	14.2
8位	調査・コンサルタント	14.9	8位	信用金庫・労働金庫・信用組合	14.0
9位	建設・住宅・不動産	13.8	9位	官公庁・団体	13.6
10位	保険	13.6	10位	水産・食品	13.1
11位	信用金庫・労働金庫・信用組合	12.6	11位	情報・インターネットサービス	11.8
12位	医薬品・医療関連・化粧品	12.2	12位	ホテル・旅行	10.8
13位	官公庁・団体	11.6	13位	電子・電機	10.3
14位	エネルギー	11.3	14位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	9.5
15位	情報・インターネットサービス	10.0	15位	エネルギー	9.0
16位	エンターテインメント	8.9	16位	調査・コンサルタント	8.7
17位	証券・投信・投資顧問	8.6	17位	医薬品・医療関連・化粧品	8.5
18位	素材・化学	8.3	17位	素材・化学	8.5
	教育	8.3	19位	自動車・輸送用機器	8.3
20位	自動車・輸送用機器	8.0	19位	教育	8.3

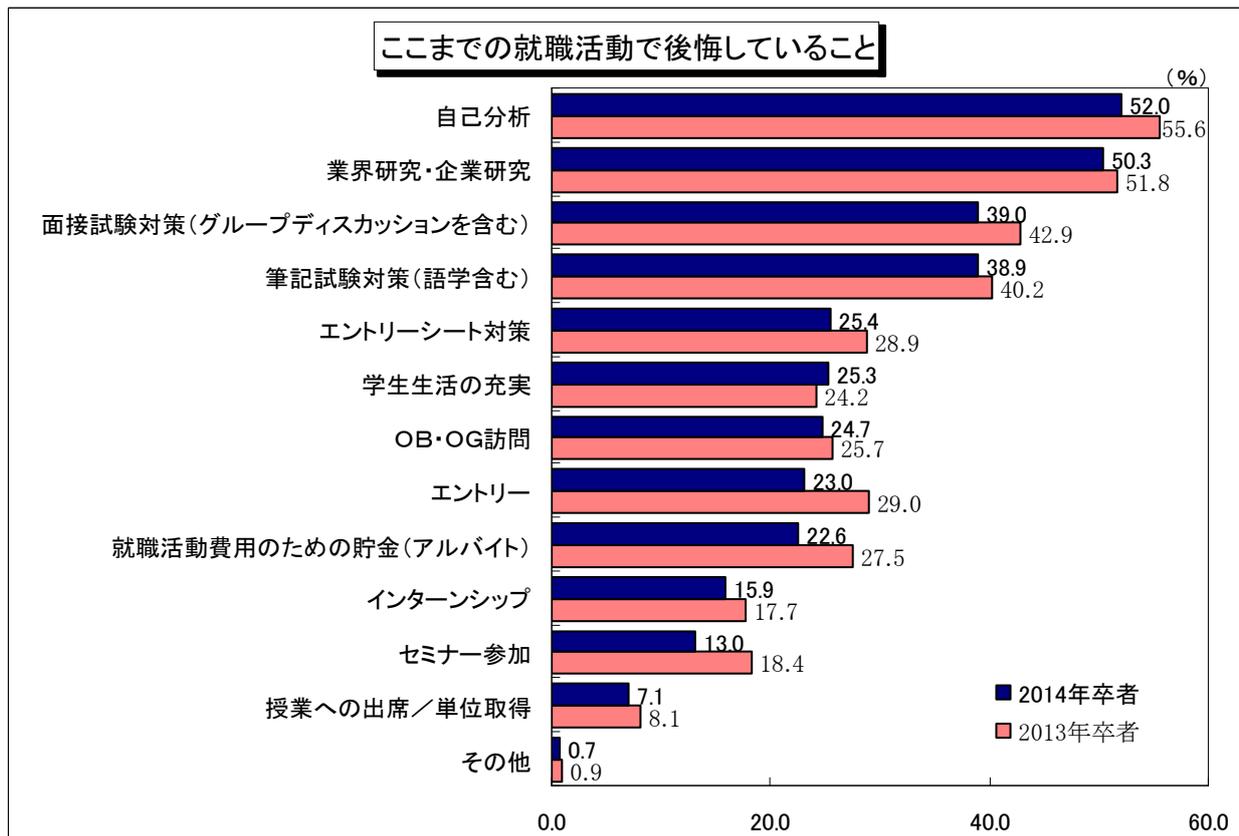
志望業界の推移 (理系)

11月下旬調査		%	4月調査		%
1位	医薬品・医療関連・化粧品	28.7	1位	電子・電機	24.4
2位	水産・食品	26.4	2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.8
3位	素材・化学	26.3	3位	水産・食品	20.6
4位	電子・電機	23.7	4位	医薬品・医療関連・化粧品	20.6
5位	エネルギー	18.4	5位	素材・化学	20.4
6位	情報・インターネットサービス	15.5	6位	情報・インターネットサービス	18.7
7位	自動車・輸送用機器	15.3	7位	精密機器・医療用機器	16.1
	機械・プラントエンジニアリング	15.3	8位	自動車・輸送用機器	15.3
9位	官公庁・団体	15.0	9位	エネルギー	15.1
10位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.6	10位	機械・プラントエンジニアリング	14.5
11位	精密機器・医療用機器	13.2	11位	官公庁・団体	14.3
12位	調査・コンサルタント	12.2	12位	通信関連	12.4
13位	商社(総合)	11.7	13位	運輸・倉庫	10.0
14位	建設・住宅・不動産	11.1	14位	建設・住宅・不動産	9.6
15位	銀行	10.1	15位	調査・コンサルタント	8.6
16位	マスコミ	9.0	16位	マスコミ	7.7
17位	通信関連	8.9	17位	銀行	7.3
	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.9	18位	鉄鋼・非鉄・金属製品	6.9
鉄鋼・非鉄・金属製品	8.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス		6.9	
20位	商社(専門)	7.5	20位	商社(総合)	5.9

※上位20業界を抜粋

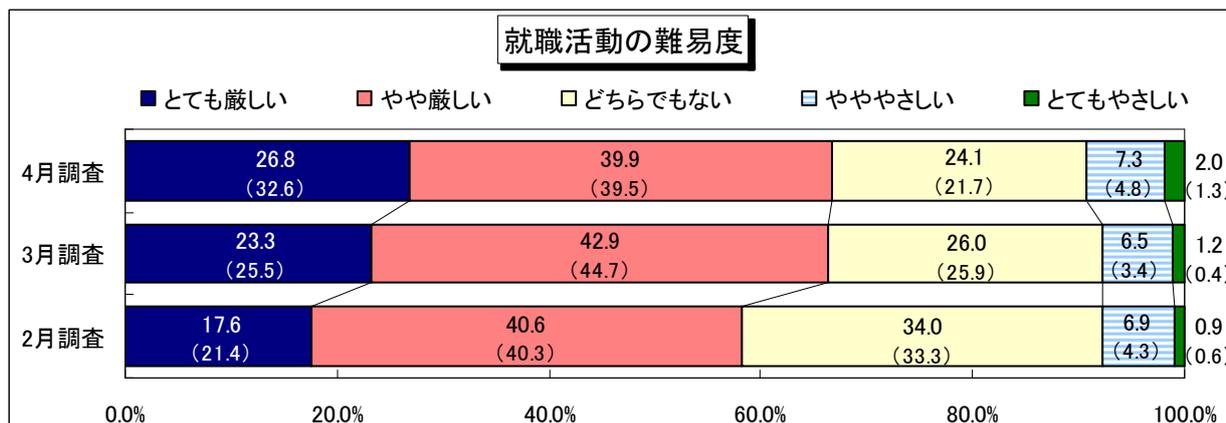
7. ここまでの就職活動で後悔していること

ここまでの就職活動で「もっとしっかり（たくさん）やっておけばよかった」と後悔していることを聞いた。前年に引き続き「自己分析」が最も多く、52.0%と今年も過半数が選んだ。他に「業界研究・企業研究」も50.3%と半数を超えている。全体的に前年より選んだ項目が少ない（数値が低い）が、前年は2カ月間の短縮により準備不足のまま本番を迎えざるを得なかった学生が多かったのに対し、今年は改定2年目で、先輩たちよりは準備や覚悟ができていたのだと推測できる。



8. 就職活動の難易度

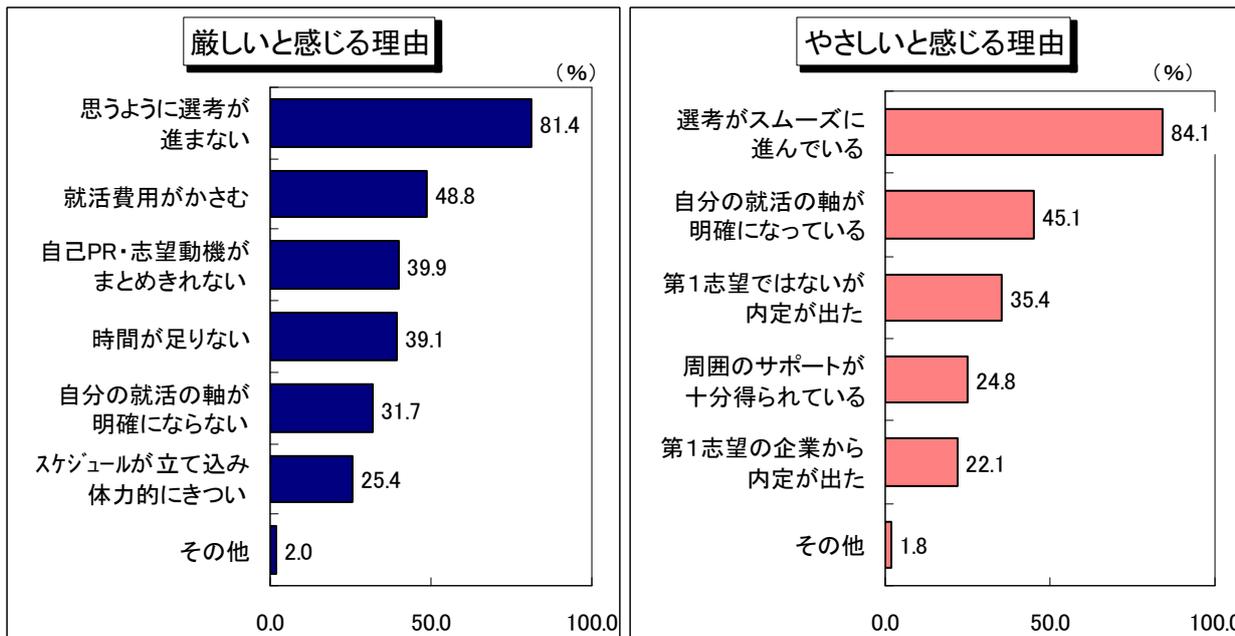
就職活動の感触を3カ月連続で聞きグラフ化した（「わからない」と回答した人を除く）。「とても厳しい」と感じる学生が月を追うごとに増加し、2月の17.6%から2カ月間で26.8%へと9.2ポイント増えた。活動が進み、エントリーシートや面接試験で不合格になるなど、厳しさを実感する学生が増えたのだろう。しかし、前年調査に比べるといずれの月も「とても厳しい」を選ぶ学生は減っている。内定率も増加しており、前年の学生よりは楽観的な見方が広がっている。



9. 就職活動を厳しい／やさしいと感じる理由

就職活動の感触を「大変厳しい」「やや厳しい」と回答した人に、そう感じる理由を選択肢から選んでもらったところ、「思うように選考が進まない」が81.4%と突出して多かった。2番目は「就活費用がかさむ」で、主に地方学生が選んでいた。

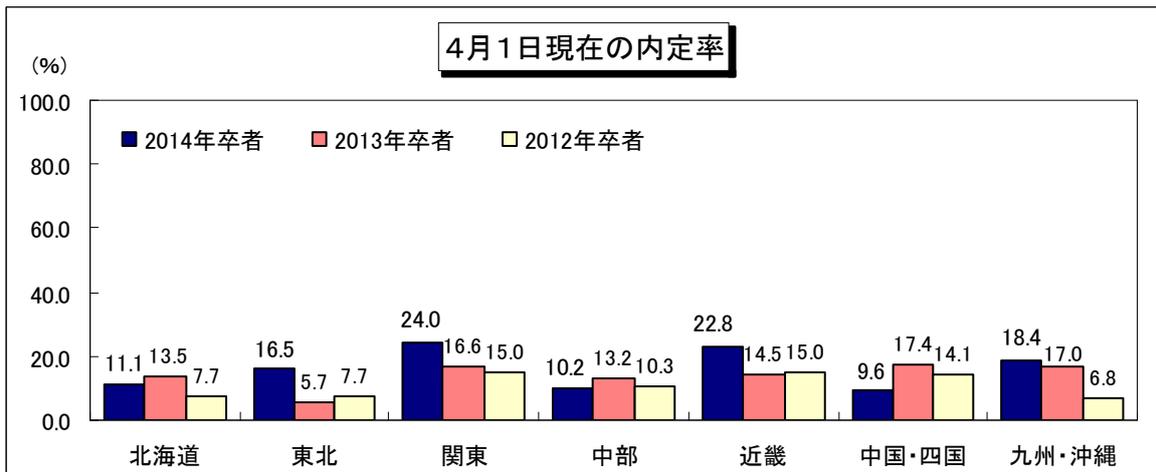
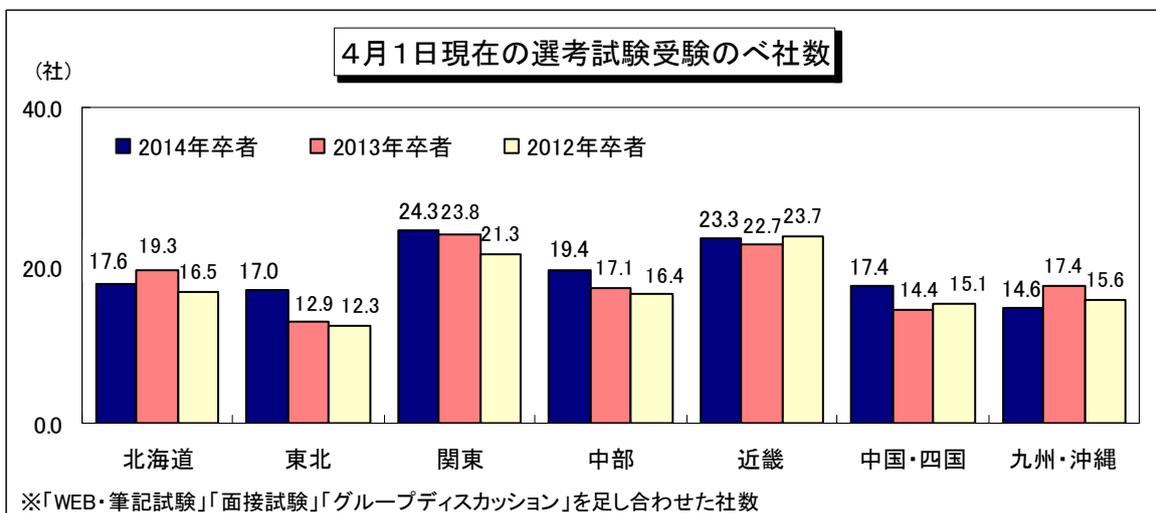
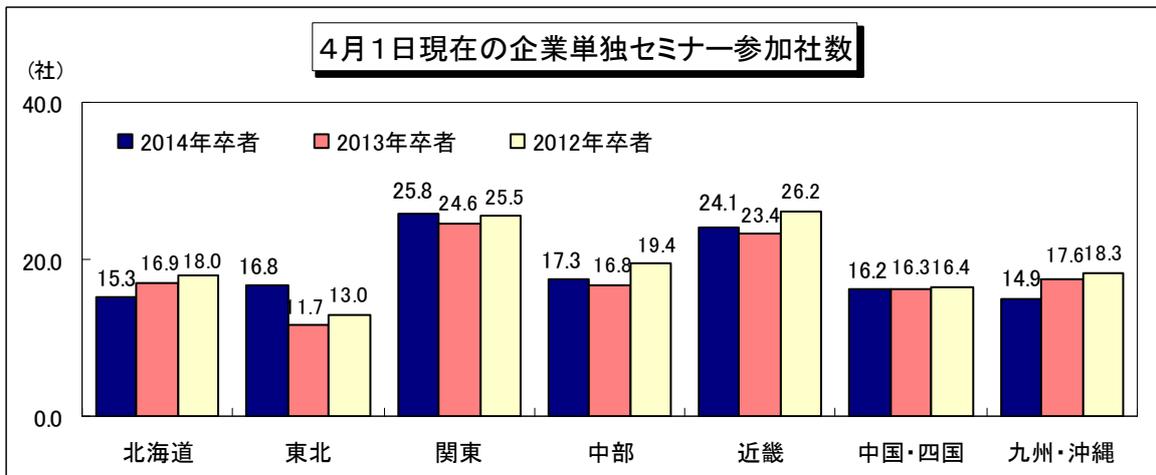
「大変やさしい」「やさしい」と回答した人にもその理由を聞いたが、「選考がスムーズに進んでいる」が84.1%と突出していた。4月の選考解禁直後という調査時期を考えると、選考の進み具合で就職活動の感触は大きく変わることが改めてよく分かる。



■就職活動に関して思うこと

- いい緊張感をもって、割とスムーズに就職活動を行えている。これも外資系企業の選考などで早い時期から経験を積み、失敗も重ねてきたことによるのだと思う。 <文系男子>
- 思ったよりも早く第一志望のところから内定をいただいたが、本当にこの会社でいいのか多少の不安は感じている。 <理系男子>
- 落ちることに慣れると、受かり方がわからなくなる。毎回の反省が重要だと思う。最終面接まで行っても落ちることがある、というのを身をもって体験し、就職活動は相性だと感じた。 <文系女子>
- 大学の研究との両立が難しい。面接となると他府県に移動となることが多いので、交通費と特に時間の消費が大きい。第一志望の企業の推薦をもらうことができたので、ここで一発決めたいと思う。 <理系男子>
- 体力的なキツさ、選考通過を待つ間の精神的苦痛の心身両面での負荷が思ったより大きい。とりあえず一つ内定を取れば精神的にも落ち着くのではないかなと思う。 <文系男子>
- 2、3月あたりから就職活動に対するモチベーション維持の難しさを感じる。学校名でエントリーシートは通ると先輩から言われていたが、実際には半分以上が落とされてしまい、油断していたことを後悔している。 <文系女子>
- 4月に入り選考も本格化していく中で、選考に落ちた企業もたくさんあり、自分を必要とする企業があるのかという不安も募ってきました。そんな中でやはり就職活動の厳しさを実感しています。 <文系男子>
- 自分らしさを出せるかどうかが最重要項目だと思います。それが出しきれず残念な結果になったときが一番悔しいですね。 <理系女子>
- 周囲の友人が次々と内定を獲得していて多少焦り始めてきているが、全体的に見ればまだ内定が出ている人のほうが少ないので、これからも頑張っていこうと思う。 <文系男子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2014年卒者	72	79	545	157	259	73	103
2013年卒者	52	70	512	167	241	86	88
2012年卒者	52	52	461	165	227	78	88